



敷地全景

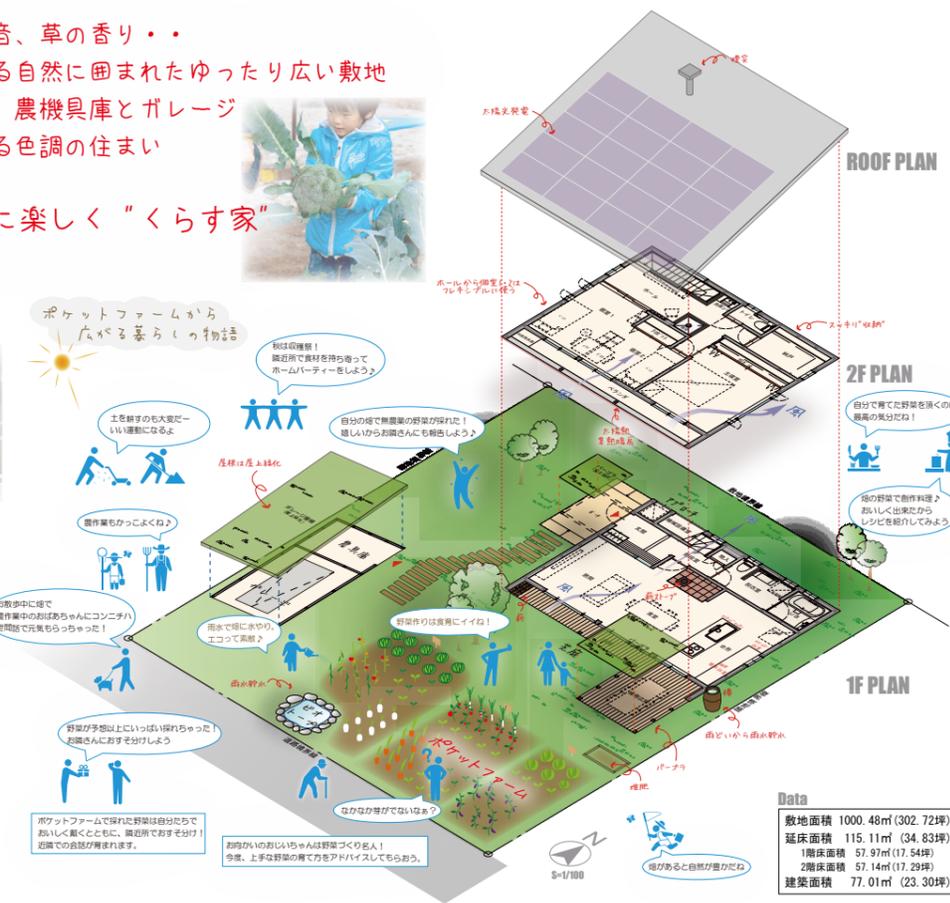
土の匂い、木々の音、風の音、草の香り・・・
 四季の移ろいが感じられる自然に囲まれたゆったり広い敷地
 家庭菜園にビオトープ、農機具庫とガレージ
 周囲の景観に呼応する色調の住まい

自然とともにおしゃれに楽しく“くらす家”



この住まいは“住むための家”だけではなく、地域コミュニティとの繋がりが密接なものとなるよう“ポケットファーム”(=家庭菜園)をコアに『エネルギーや食の自給力を高めつつ、周囲のコミュニティとも繋がって暮らしている住まい』として敷地全体で設計しています。

ポケットファームを軸に近所との交流が自然に生まれ、地域としての繋がりが育まれ、互いに支え合えるコミュニティが形成されることを期待します。そしてそこで生まれた輪が災害時の対応や子育て、介護などイザという時の頼りになる、なつかしく親密なコミュニティの再生を願っています。



地域の山で成育過程にCO2を吸収した木材を燃料に使う薪ストーブでエネルギーの地産地消！

■5.5KWの太陽光発電。
 ■太陽の熱エネルギーを集熱して補助暖房とする太陽熱集熱暖房
 ■空気の熱で給湯するエコキュート

循環する暮らしとエネルギー
 省エネルギーとライフスタイルの一体化
 自給自足の住まい

畑で収穫した新鮮野菜は食卓に直送！
 生ごみは畑の肥料に自然循環

屋上緑化、バイオマス、雨水の貯水と活用・・・
 限られた資源を有効活用し地域で地産地消

出来る範囲、無理のない範囲内でエネルギーの自給自足を図り、住まいを中心に自然な循環サイクルを呼び戻す住まいへ



リビング



ダイニング



テラス



農機具庫

サステナブルで省エネ型の暮らしのための実践

1. 自然とともに生きる
2. 自然の法則を観察してエネルギーとカタチをデザイン
3. 普遍性、相対化したデザイン
4. 太陽光、地熱、水力、風力を使いエネルギーを創出する努力
5. 省エネ、空調になるべく頼らない構造
6. 健康な建築、毒性のない材料の使用
7. 地産地消
8. 場所全体の調和、美しい日本の風景の継承
9. 廃棄物の監視
10. 責任と平和、自然や人を愛する姿勢

建築作品部門

低炭素型社会の推進 低炭素型のライフスタイルの推進

自然とともにおしゃれに楽しく“くらす家”

くらすの家

夫婦と子供の4人家族の住まい。
 1階にLDKと水回り、2階は暮らしに合わせフレキシブルに使える広間と寝室、納戸を配したプランとし、地場産材を積極的に使って建てたシンプルモダンな住まい。

住居、ポケットファーム、休憩や談話、ホームパーティーなど多用途の屋根付きテラス、農具や趣味用品を収納する農機具庫、屋上緑化、植栽、ビオトープなど、豊かな自然環境を活かして敷地全体で暮らし向きを設計。

エネルギーや食の自給力を高めて行ける仕組みづくりとしてシンプルな片流れ屋根にソーラーパネルを載せ、屋根に降った雨は樽やビオトープに貯水して畑への散水に利用。食事で生まれた生ごみはコンポストを通して堆肥化して畑へ。暖房は間伐材を有効利用できる薪ストーブとし、補助暖房として太陽熱の有効利用として太陽熱集熱暖房を設けています。



応募代表者：片倉 隆幸
 片倉隆幸建築研究室

1956年12月11日 長野県生まれ
 中学2年生の時、大阪万博で見た各国パビリオンに感銘を受けて建築家の道へ。
 芝浦工業大学大学院で建築計画を専門に

研究。1987年片倉隆幸建築研究室を設立。岡谷市を拠点に住宅作家として活動を始める。

「すべては住まい手の笑顔のために。」

それぞれの家族が紡ぐ物語のある住まいづくりを設計者として共有させて頂き、専門家としてお手伝いをさせて頂いています。